

＜資料＞ 各地の白鳥だより

各地から送っていただいたハクチョウのたよりを紹介します。たよりの一部は「雁を保護する会」のネット「JGOOSE」に発表されたものです。いつも掲載している定時定点調査の結果の原稿が間に合わず、やむをえず以下のようなさまざまな情報を集めました。（藤巻裕蔵）

2000年冬の初認記録

- ★稚内市声間大沼、10月1日（吉田敬直）
- ★浜頓別町クッチャロ湖、10月2日（山内昇）
- ★厚岸町厚岸湖。10月19日、オオハクチョウ、44羽（澁谷辰生）
- ★宮城県蕪栗沼。10月12日、オオハクチョウ初認。（戸島潤）
- ★宮城県大河原町白石川。10月14日、コハクチョウ初認、4羽（平野隆）
- ★福島市小島の森。10月18日、コハクチョウ7羽（宮本千帆）
- ★千葉県本埜村。10月21日、コハクチョウ2羽（河辺久男）
- ★東京都伊豆諸島新島。11月4日、コハクチョウの親子4羽）が渡来（荒尾稔）
- ★新潟県福島潟。10月14日、コハクチョウ2羽（ビュー福島潟）
10月25日周辺水田、アメリカコハクチョウ1羽（ビュー福島潟）
- ★石川県加賀市片野鴨池、10月22日、コハクチョウ11羽
- ★滋賀県琵琶湖、10月19日（昨年より1日遅れ）、コハクチョウ、成鳥5羽、幼鳥3羽、計8羽（琵琶湖水鳥・湿地センター）
- ★米子水鳥公園、10月17日、コハクチョウ、14羽（桐原佳介）

北海道

釧路。釧路動物園。園内に水鳥の池があり、冬じゅう水を循環させ凍結しないようにしているが、ここのオオハクチョウが飛来する。1999年2月21日には約230羽がいた(藤巻裕蔵)。

秋田県

1998年11月12日には能代平野にも初雪があり、15日には小友沼に入っているハクチョウ類(コハクチョウ主体)は513羽、その中にコハクチョウで緑色104Yの首輪標識を付けた個体を観察した(松橋優悦)。

1999年10月26日、小友沼のハクチョウ類は、コハクチョウ163羽、オオハクチョウ44羽であった(松橋優悦)

岩手県

御所湖はほとんど凍結するが、一部水を循環させ凍結しない所で給餌している。1999年2月15日に約羽(藤巻裕蔵)。

盛岡市高松池では1999年2月16日に約250羽が数えられた。吉田稔さん(日本野鳥の会盛岡支部長)の話によると、盛岡での越冬は1969年頃から始まり、当初は静かに逗留するだけであったが、越冬个体数が増加するにつれ越冬か所も増え、盛岡市内でも高松池の他にも北上川の明治橋、館板橋でも越冬し、これらの越冬場所の間を移動する個体が今常時市内の上空を飛ぶ姿が見られとのことである。1999年1月15日の調査では岩手県全体で4062羽が記録され、そのうち高松池の301羽が最多であった。(藤巻裕蔵)。

福島県

2000年12月13～14日に福島県相馬市やいわき市方面を調査した。

相馬市手沢沼：オオハクチョウ30羽、コハクチョウ35羽。ハクチョウの管理人がおり、密度の高い餌付けを行っている。

原町市小沢海岸：今回は観察されなかったが、12月発中旬には海岸よりの田圃に水を張ると、20羽以上のハクチョウが飛来するということである。

相馬郡鹿島町真野川、国道6号橋下：オオハクチョウ20羽。ハクチョウもカモも500mにわたって分散していた。

鹿島町横峯溜池：ハクチョウは観察されず。

双葉郡楢葉町大堤：オオハクチョウ92(12)羽、コハクチョウ276(62)。立派な管理舎があり、管理人が濃密な給餌を行っている。

いわき市夏井川白鳥の里：コハクチョウ300+羽。極めて濃密な給餌を行っている。

いわき市鮫川沼部地区・沼辺橋上流：コハクチョウ100+羽。ここではほとんど餌付けもしていない模様で、コハクチョウは川に沿って1kmの範囲に分散していた。

(荒尾稔)

新潟県

福島潟。コハクチョウの渡来状況は次のとおりです。1998年10月9日、初認、14羽、10月22日2羽、10月30日552羽、11月15日840羽(アメリカコハクチョウ1羽)。1999年1月15日約1500羽。(豊栄市水の駅「ビュー福島潟」)

福井県

福井市波寄町(5436-11-81)1998年10月24日14～16時。コハクチョウ7羽が水のある田圃で蒞り残しの稲穂をしごいて食べたり、座り込んで休憩していた。これらは全て成鳥で、うち1羽の嘴の前面は上まで黒い個体であった。(柳町 邦光)

石川県

邑知潟での送電線コハクチョウ落鳥は1999/2000年のシーズンで3羽目となった。多い年には1シーズンで14羽のコハクチョウ落鳥死やケガがあり、高圧送電線には防止策としてカラーリングを装着してあるが効果は見られない。今春、スパイラルロッ

ド方式に改良してもらったが、送電線越えで採食するグループ約30羽のうちすでに3羽が落鳥している。

邑知瀨から2km隔てる海岸で晦日に約1000発の花火があり、マガンは200羽から70羽へ減少、カモ類は約半数に減少しましたが、約1週間後にはカモ類だけ数の回復がみられる様になりました。コハクチョウには影響が無かったとみられ、1月5日の今年初カウントでは晦日より40羽増加していました。(沢田隆)

長野県

岡谷市横河川河口(諏訪湖南岸)で、2000年1月24日に、コハクチョウにまざり、コブハクチョウ1羽(幼鳥)が観察された。

滋賀県

コハクチョウは2000年12月14日にびわ町の水田に218羽と湖西(新旭町)に27羽、合計245羽になっていますが、草津あたりに南下している群もあり、もう少し多いかも知れません。(琵琶湖水鳥・湿地センター、清水幸男)

山口県

阿知須干拓地の情報、2000年1月4日。コハクチョウ成鳥2羽。ここ9年間連続して越冬している。コハクチョウの越冬南限地といってよいとおもう。参考までに過去の越冬記録をあげると、次のとおりである：1984年12月、3羽、1987年10月13日、1羽、1988年10月30日、2羽、1989年11月25日、2羽、1991年11月15日、6羽、1992年12月8日、4羽、1993年12月25日、6羽、1994年11月24日、7羽、1995年11月22日、4羽、1996年11月28日、14羽、1997年11月12日、1羽、1998年12月5日、2羽、1999年11月11日、2羽(原田量介)